

ワクチン接種と情報の充実で
 成人麻疹の流行を阻止しましょう。

成人麻疹の今後の対策

成人麻疹の流行を阻止するには、次の3つの点が大切です。

1 麻疹に対する高い免疫力を維持すること。
 (ワクチンの2回接種の実施)

2 ワクチンの接種率を高めること。
 (95%以上)

3 サーベイランスの充実。
 (麻疹と診断したら、直ちに保健所に届け、
 どこで流行しているか等の情報を早期に中央で
 把握すること)

麻疹ワクチン接種が流行を阻止するキーワード

その為に、2006年6月2日より第1期(生後12か月～24か月)のMRワクチン(麻疹風疹2種混合ワクチン)の接種に加え、小学校就学前の1年間(幼稚園の年長児)に第2期としてMRワクチンを接種することが決まり、現在実施されています。さらに、中学1年生と高校3年生にMRワクチンを接種されることが決まり、2008年4月より5年間実施されることが予定されています。麻疹ワクチンを受けることが何よりも大切です。

■MRワクチン接種スケジュール

	出生	6ヶ月	12ヶ月	2才	5才	6才	7才	12才	13才	14才	17才	18才	19才	20才
麻疹 風疹 (MR)ワクチン			1回		1回			1回			1回			
			第1期 (1才児)		第2期※1 (小学校就学前)			H20.4月～※2 (中学1年生)			H20.4月～※2 (高校3年生)			

※1 2006年から小学校就学前の1年間(就学前年度4/1～3/31)にMRを第2期として接種する事が決まり実施中

※2 2008年4月からは中学1年生と高校3年生にMRワクチンを5年間1回追加接種される予定

京都府医師会

成人麻疹

小児より症状が悪化する成人麻疹。
 「ワクチン接種」は今後の流行を阻止する要。

麻疹流行の影に、成人麻疹の増加が目立ってきています。成人麻疹は、一般的な小児期の麻疹よりも症状が悪化し、重症化しやすい感染症です。今回の『BeWell』は、成人麻疹に対する注意と今後の対策について紹介します。



2007年に流行した成人麻疹とその背景

2007年の麻疹の流行は、2001年に次ぐ患者報告数となっています。その特徴は、15才以上の成人麻疹が殆んどだったことです。1978年に麻疹ワクチンが定期の予防接種となりましたが、1978年の1才児は2007年に30才を迎えており、現在の30才以下はその多くが麻疹ワクチンを1回接種し、麻疹に罹患した経験がない人達と考えられます。この世代には、麻疹ワクチンを接種しなくて麻疹に罹患していない人が一部残っており、麻疹ワクチンを接種したものの免疫がつかなかった人(約5%未満)や、ワクチン接種後長時間が経過し、その間に麻疹ウイルスの曝露がなかった(麻疹患者と接触していない)ために、麻疹に対

する免疫増強効果(ブースター効果)が働かず、麻疹に対する免疫が低下してしまったなどが、現在の成人麻疹を発症しているものと推測されます。2007年の流行では、麻疹にかかった人達の多い順の年齢は、20代前半(20～24才)、次いで20代後半(25～29才)、15才後半(15～19才)の順となり、15～29才までで全報告数の80%前後を占め、34才までで90%以上となっています。20代前半が最も多かったのは、1989年～1993年4月までMMRワクチン(麻疹、風疹、おたふくかぜの3種混合ワクチン)が実施されたのが、その背景にあるのではと云う意見もあります。

